

目標・評価の計画について

○学習指導要領においては・・・

各教科等の「目標」及び「各段階の目標」が、育成すべき資質・能力の三つの柱である、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」で整理して示されている。学習評価もそれに対応させた3観点に整理することとなっている。

つまり各教科の授業では、この三つの柱で目標を立て、評価をすることになっている。

目標設定の仕方

- ① 単元全体を見通して学ばせたいことや育てたいことを、学習指導要領の各教科の目標・内容に照らして設定する。その際、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成すべき資質・能力の三つの柱それぞれに設定する。
- ② 単元全体の目標を受けて、本時の学習活動で「その目標をAさんについて考えるとこうなる」というように個別目標を設定する。
- ③ ②に対して、個々の児童生徒が、どのようなことをどの程度でできれば目標達成といえるかが分かるような評価規準を設定する。

〈目標の三つの柱、評価の3観点〉

	知識及び技能	思考力、判断力、 表現力等	学びに向かう力、人間性等 (評価の観点では「主体的に学習 に取り組む態度」が相当)
	触れる・気付く・理解する ・身に付けること	理解したこと、身に付けた ことを活用する力を高める こと	進んで～ようとする、生活や他の 学習に生かそうとすること
目標の 文末例	～理解する ～気付く ～身に付ける	～について考える ～伝える ～表現する	～生かそうとする ～見付けよう とする ～工夫しようとする 進んで～しようとする
評価の 視点	〇〇を理解しているか、 〇〇することができ るか	自分なりに考え、判断しな がら課題に取り組んだか、 考えたことや気付いたこと を表現しているか	主体的に知識・技能を身に付け たり、思考・判断・表現しようとする 態度が見られたか
児童生徒 のどんな 姿を評価 する？	・「できた」「分かった」 「身に付いた」などの知 識や技能の習得状況 ・他の学習や日常生活 でも活用できるくらい 理解し、技能を活かせ ているか	・分かった上で動いている か ・考えたことを言葉で伝え たり書いたりすることで表 現できているか ・視覚的支援等を使いな がらでも、一人で考えな がらできているか	・「またやりたい」「もっとやりた い」と意欲をもって取り組もうとし たか。自分から進んで取り組もう としたか ・「次はこうしたい」「こうすれ ばうまくできるかも」と工夫して行 動したか ・学んだことを生活に生かそうとし たか
評価規準	3つの柱それぞれに立てた目標に対して、具体的にどのような行動をすれば達成となるのかを書く。 例えば、図工で「自分の好きな色になるような絵の具の組み合わせを見つけようとする」という目標を設定した場合、評価規準は「二つの色を選び、好きな色を作り出そうとすることができたか」や「作りたい色を想像しながら、2色を選んで混ぜることができたか」などになる。		